

7/15 五夜

NHKが参院選候補者に行ったアンケート調査で、自民党候補者の4割が選択的夫婦別姓や同性婚への賛否を回答せず、ジェンダー平等の実現に背を向ける姿勢が改めて浮き彫りになりました。近年、選択的夫婦別姓と同性婚に反対する議員を踏とね市民の活動が活発になっており、「反対」を纏じて無回答としているところがみられます。

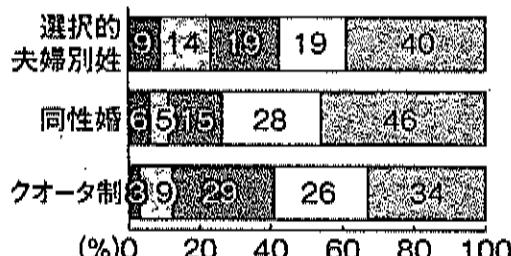
選択的夫婦別姓制度の導入について自民党候補は「反対」「どちらかども反対」が合計で38%と約4割が反対し、「回答なし」が

## 選択的夫婦別姓・同性婚

# 自民候補 4割が回答せず

NHK 調査

ジェンダー政策に関する自民党候補者の回答



※NHK参院選候補者アンケートから作成  
の。調査は6月22日までに回答した人517人をN.H.K.が集計したもの

40%を上回りました。認めのクオータ制の導入性婚を法律で認めるにとづいては、自民党候補は「反対」「どちらかといえど反対」が55%と43%を上回りました。無回答は46%と過半数に達し、無回答は34%でした。公明党候補も42%が無回答でした。  
また、候補者や議席の女性割合を一定以上にすることを法律で定めた。日本維新の会候補は「反対」「どちらかといえど反対」が82%と大半を占めました。

日本維新の会候補は「反対」「どちらかといえど反対」が82%と大半を占めました。